

セックスのためにトレーニングをする女性 彼氏と毎日朝までセックスする日々 大乱交を毎日しているグループと友達になって・・・

とある街中のビルの一角、スポーツジムで重いダンベルを上げ下げする女性がいた。名前をミカという。寝そべって左右についた鉄の重りを繋ぐ棒を上げ下げしている。上げる度に、汗をかいたしっかりとシェーバーで処理した無毛の脇が斜め上から見れば見える。

次はスクワット。力士のようにガニ股に膝を広げ、腰をぐいっと落とす。

彼女は締まった腹筋とうち太ももを存分に生かして朝までラブラブの彼氏とセックスする日々だ。

週に3回ほどカフェの店員をして仕事しているが、彼と同棲の生活。トレーニングにはほぼ毎日通っていて、彼氏も別のジムで鍛えている。

夕方トレーニングから帰るとはじまるセックスは夜が明けるまで続く。

毎日汗だくのスポーツがセックスであるため、体は締めきっている。

膣内に入れっぱなしで数時間、ずっとピストンなどというのはザラだ。

ちなみにミカが日々トレーニングをしているこのジムのオーナーは、このジムのほかに大人の玩具の店も経営している。エッチなことに興味津々のエロオヤジの彼だが、モテない彼自身は女には縁がない。要はビジネスである。

すると、ぞろぞろと肌に密着したパンツを穿いて若い男女グループがジムの自動ドアを開き器具のルームへやってきた。女性のスパッツはホットパンツを更に短くしたくらいに短い。ほとんど股の部分だけを隠している薄い赤色だ。

モッコリブリーフのトレーニングパンツなのは男性たち。

モッコリしすぎてパンツが破けそうなほど膨らんでいる。

いかにも毎日大乱交で汗を流していそうなスポーティな男女グループである
総勢7，8人ほど。

そして、その団体には目もやらず一心不乱に器具を動かしているミカの隣には、このジムで友達になったマラソンのセミプロをしているサリナという女性がいた。持久力が命、ひたすら走り込みが基本の長距離だが、インナーマッスルをはじめ内側の筋肉も必要と言うことでこのジムへ来て短距離ランニングマシンなどで走ったりしている。セミプロとは地方の大会などへ参加し、賞を獲得するレベルの選手。スポンサーなどもついているが、オリンピックで競うほ

どではない。

窓の外は爽やかな午後の街の景色が広がっている。

「ここは私たちが毎日セックスするためのトレーニングジムなのよ!!! エッチなことに興味がなさそうなあなたはどっかへ行きなさい!!! ふんっ!!!」

グループの金髪の髪的女性がサリナに向けて突如叫び、口論になったではないか。

慌てて会計事務の台のところで見ていたオーナーとミカが止めに入る騒ぎとなった。

棚に置いてあったガラスコップがこぼれて床は水浸し。

なんとか時間が経ち沈静したが、オーナーの悟（さと）しもありこんな結論に。

ここは、結局はスポーツを楽しむところなんだから

その日のジムの閉館まぎわ、オーナーはミカと話をする。

「今日は大変なことになってスマンね」

ミカは少し軽いため息を吐いて言った。

「結局、あれってどっちが正しいんですかね。私なんて、このトレーニングジムで鍛えた太ももとかを使って毎晩彼氏に入れられまくって気持ち良すぎるから、グループのメンバーの気持ちも分かったりするんですけど・・・」

体験版は以上になります。
